

第5章 総括

第1節 越敷山古墳群（金廻地区）について

1.はじめに

越敷山古墳群は、標高226mの越敷山一帯に広がる丘陵に分布しており、125基の古墳が確認されている。これらは発掘調査が行われておらず、いつ頃から形成されたのかなど、詳細な情報は得られていない。今回、越敷山古墳群の北西側において、20基の古墳がまとめて分布する金廻周辺に国道181号（岸本バイパス）道路の改良工事が行われることとなり、工事範囲にあたる金廻家ノ上ノ内遺跡内の10基の古墳（越敷山49・51・75～77・98・99・121～123号墳）の調査を実施した。その結果、古墳時代中期から後期にかけて築造された古群であることが明らかとなった。詳細については前章までに報告した通りであるが、ここではそれを若干整理し、まとめとしたい。

2.古墳群の形成過程

造営開始時期は、最も古いものが中期前葉頃の越敷山121号墳であり、この頃からとみられる。反対に最も新しいものは、後期前半頃の越敷山99号墳であるが、南西側へと続く丘陵頂部に横穴式石室を伴う越敷山55号墳があるため、後期後半頃まで古墳の築造が行われていたと考えられる。

これらの築造順については、まず標高85m付近の緩斜面において越敷山121号墳が築造され、その後標高112m付近の丘陵頂部に移動し、越敷山51号墳が築かれる。そして、そこを起点として後期前葉にかけて、丘陵頂部から北側へ下る尾根上に越敷山49号墳→越敷山77号墳→越敷山123号墳→越敷山122号墳→越敷山98号墳→越敷山76号墳→越敷山75号墳の順につくられる。後期前半頃には再び丘陵頂部へと移動し、越敷山99号墳が築造される。なお、越敷山55号墳がさらに南西側にあることから、

第6表 越敷山古墳群（金廻地区）一覧

古墳名	立地	時期	形状	周溝	盛土	土蓋	覆壇（m）	幸掘内には別塚を含む箇	埋葬施設	開発年度
越敷山49号墳	丘陵頂部 中期中葉	円墳	有	48.8m	直徑：19.00 (20.30), 高さ：2.30				箱式石棺	2 平成22・24年度調査
越敷山51号墳	丘陵頂部 中期前葉～後葉	円墳	有	205.5m	直徑：25.00 (27.00), 高さ：3.00				箱式石棺	2 平成23年度調査
越敷山57号墳	丘陵頂部 中期中葉	円墳	有	有	11.0m	直徑：8.00 (12.00), 高さ：1.00			箱式石棺	1 平成23年度調査
越敷山99号墳	丘陵頂部 後期前半	円墳	有	有		直徑：7.10 (9.00), 高さ：1.03			箱式石棺	1 平成23年度調査
越敷山107号墳	斜面部 中期後葉～後期前葉	円墳	有		直徑：4.60 (8.00), 高さ：1.60				箱式石棺	1 平成23年度調査
越敷山108号墳	斜面部 中期後葉～後期前葉	円墳	有		直徑：5.00 (6.00), 高さ：0.20				箱式石棺	1 平成23年度調査
越敷山108号墳	斜面部	円墳	有		直徑：3.30 (4.00), 高さ：0.43				土坑墓	1 平成23年度調査
越敷山121号墳	緩斜面 中期前葉	円墳	有		直徑：10.50 (12.00)					1 平成23年度調査
越敷山122号墳	斜面部 中期後葉～後期前葉	円墳	有		直徑：4.30 (5.80), 高さ：0.35				箱式石棺	1 平成23年度調査
越敷山123号墳	斜面部	円墳	有		直徑：8.00 (10.50), 高さ：0.80				箱式石棺	1 平成23年度調査
越敷山160号墳	丘陵頂部	円墳			直徑：10.00, 高さ：1.00					未調査
越敷山162号墳	丘陵頂部	円墳			直徑：12.00, 高さ：1.00					未調査
越敷山163号墳	丘陵頂部	円墳			直徑：12.00, 高さ：1.00					未調査
越敷山164号墳	丘陵頂部	円墳			直徑：10.00, 高さ：1.00					未調査
越敷山165号墳	丘陵頂部	円墳			直徑：9.00, 高さ：1.50				横穴式石室	1 未調査
越敷山172号墳	斜面部	円墳			直徑：11.00, 高さ：1.00					未調査
越敷山173号墳	斜面部	円墳			直徑：6.00, 高さ：1.00					未調査
越敷山174号墳	斜面部	円墳			直徑：13.00, 高さ：1.50					未調査
越敷山124号墳	斜面部	円墳			直徑：10.00, 高さ：1.20					未調査
越敷山125号墳	斜面部	円墳			直徑：8.00, 高さ：1.80					未調査

後期後半頃にかけて丘陵頂部に古墳が築造されたとみられる。

3. 墳丘規模

墳丘規模は、越敷山49・51・121号墳のように古墳群の中で古い段階に築造されたものが大きい。とりわけ越敷山51号墳は、古墳築造に用いた盛土の土量が概算で205.5m³あり、次に大きい越敷山49号墳の45.8m³に比べて4倍以上もあり、突出した存在である。これ以降、時期の経過とともに墳丘の規模は縮小していくが、越敷山75・76・98・122・123号墳のように、北側へと下る丘陵尾根上につくられた古墳については、地形的な制約のためか規模が小さくなるようである。

4. 墳丘の構築方法

築造方法については、周囲を削り出して平面形を整え、盛土をしたと考えられるが、大半の盛土が失われており、この状況がわかるものは越敷山49・51・77号墳のみである。

越敷山51号墳は、平面形を整えた後、盛土範囲を平坦にした上で盛土をする。盛土は基盤となる土を薄く敷き、墳丘の外表面側に土手を巡らし、土手の中心の窪みに土を充填する工程を2度繰り返して積み上げられており、西日本で広く認められる方法に準じて築造されている（青木2003）。盛土には地山を破碎した土（A類）、黒色土（旧表土）と地山を破碎した土の混合土（B類）、黒色土や黒褐色土を呈し、地山ブロックが含まれない土（C類）の3種類が使用されており、A類は土手の内部、B類は土手、C類は基盤となる部分で用いられ、使い分けられていたと考えられる。ただし、これらは針貫入強度測定の結果、強度を増すなど構造的な要因というよりも、視覚的な要因によって使い分けられていたと思われる。越敷山49号墳については、越敷山51号墳と概ね同様の工程を経てつくられるが、繰り返し工程がないなど簡略化されている。また、越敷山77号墳についても、越敷山49号墳と共通するが、盛土範囲を平坦にする工程は省略されており、時間の経過とともに簡略化するようである。

5. 埋葬施設

埋葬施設は、箱式石棺を採用しているものが大半であり、それ以外では、石蓋を伴う土坑墓が越敷山98号墳で認められるにすぎない。これらの主軸は越敷山51号墳埋葬施設2を除き、尾根に直交しており、東西方向を向く。これらの構築方法は越敷山埋葬施設1が構築墓壙と考えられ、それ以外は墳丘の築造後につくられた掘込墓壙とみられる（和田1989）。

箱式石棺の構造については、短側石を長側石で挟んだ「H」字形を呈するものが大半を占め、越敷山122号墳のみが「口」字形となる。長側石は長方形の石材を平縫によって組み合わせており、縫目には板石を配置するものが多い。なお、長側石についてみると、越敷山49号墳埋葬施設1や越敷山51号墳埋葬施設1では大型の板石を2×2枚使用し、短側石との接地面には溝が彫り込まれるなど、丁寧に加工する。それに対して、これ以外の埋葬施設では、板石を概ね3×3枚を使用しているが、溝が彫り込まれるなどの加工は認められず、簡略化している。使用された石材については、板状に剥離するものを使用している。これらは分析結果から、遺跡周辺にある露岩とみられ、この周辺から採取されたものと考えられる。

ところで、箱式石棺内には赤色顔料が塗布されるものがある（越敷山49号墳埋葬施設1、越敷山51号墳埋葬施設1・2）。その成分については、分析結果からベンガラと考えられる。なお、越敷山49

号墳埋葬施設1や越敷山51号墳埋葬施設1から出土した人骨の頭蓋骨にも赤色顔料が塗布されているが水銀朱であり、石棺内と人骨では顔料を使い分けていたとみられる。

6. 埋葬状況

埋葬頭位については、石枕の状況をみると、概ね東を向く。ただし、同棺複数埋葬が行われているものは対置埋葬のため、西を向くものがある。また、同一墳丘内における複数埋葬のうち、追葬とみられる越敷山51号墳埋葬施設2については南を向き違いが認められる。

人骨は、越敷山49号墳埋葬施設1、越敷山51号墳埋葬施設1、越敷山51号墳埋葬施設2で検出している。このうち越敷山49号墳埋葬施設1と越敷山51号墳埋葬施設1は、1つの棺の中に複数の被葬者が埋葬されており、なかでも越敷山51号墳埋葬施設1は5体の人骨が埋葬されているほか、追葬時の掘り方がみられるなど埋葬された状況がよく残る。なお、これらの埋葬施設の中には片付けられた人骨がみられ、それらには石枕が配置されずに、棺床に頭蓋骨が置かれている。

ところで、一つの棺の中に多数の人骨を埋葬するものは、これまで米子市にある日下古墳群の日下12号墳（後期前半頃）、大山町にある向原古墳群の向原第6号墳第1号埋葬施設（後期前半頃）などが知られており、これらは長期にわたり追葬が行われていたとみられ（岡野2000）、越敷山51号墳埋葬施設1の状況と共通する。そのため、少なくとも当該地域では中期前葉頃において堅穴系埋葬施設で長期にわたり追葬が行われていたとみられ、後期後半頃にかけて存続していたと考えられる。

このほか、越敷山49号墳埋葬施設1の2号人骨と越敷山51号墳埋葬施設2に埋葬された人骨は、散乱していたり（2号人骨）、頭蓋骨や肩甲骨が腹部の周辺にあるなど、埋葬後に動かされた形跡が認められる。

7. 副葬品

副葬品は、越敷山51号墳の埋葬施設1と越敷山123号墳の埋葬施設から出土しており、ともに武器や農工具が納められている。とりわけ越敷山51号墳の埋葬施設1からは鉄剣、鉄刀、鉄鋸、鉄斧のほか、勾玉や管玉などの玉類、堅櫛と多彩な副葬品が出土している。なかでも鉄鋸は、袋部が五角形を呈しており、百濟・伽耶系のものとみられ、このような鉄鋸は「地方」の有力首長墓や渡来系文物を含む古墳から出土することが多いようであり（高田1998）、副葬品の出土状況や墳丘規模などを踏まえると、越敷山51号墳は、この時期における当該地域の中で突出した存在といえるだろう。

参考文献

- 青木 敬 2003「古墳建築の研究—墳丘からみた古墳の地域性—」六一書房
- 岡野雅則 2000「鳥取県内における同棺複数埋葬について」『島古墳群 米里三ノ嵩遺跡 北尾釜谷遺跡（北尾古墳群）』鳥取県教育文化財団調査報告書64、財団法人鳥取県教育文化財団
- 清家 章 2010「古墳時代の埋葬原理と親族構造」大阪大学出版会
- 高田貴太 1998「古墳副葬鉄鋸の性格」考古学研究第45巻第1号、考古学研究会
- 和田晴吾 1989「葬制の変遷」『古墳時代の王と民衆』古代史復元6、講談社

第2節 まとめ

金廻ノ上ノ内遺跡の調査の結果、越敷山古墳群（金廻地区）に属する10基の古墳のほか、竪穴建物2棟、掘立柱建物1棟、段状遺構2基、落とし穴18基、土坑9基、土坑墓1基を確認した。古墳については前節で述べたとおりであるが、それ以外の遺構については、概ね古墳時代以前のものとみられ、縄文時代と弥生時代が主体となすようである。ここでは今回の調査成果について時期ごとに概観し、まとめとしたい。

縄文時代

縄文時代では、今回の調査では落とし穴18基を確認した。これらは底面にピットを伴うものと、伴わないものの2種類が認められる。また、平面形には円形、方形、長方形などがあり、断面形も葉小形やすり鉢状を呈するなど多彩である。このため、つくられた時期に差があるものと想定される。これらの位置についてみると、単独のものが列状に配置されているようである。ところで、周辺遺跡の状況をみると、坂長宮田ノ上遺跡や坂中第5遺跡、越敷野原遺跡、小野越城野原第1・2遺跡などで落とし穴が確認されており、この丘陵一帯は、狩猟場として利用されていたとみられる。

弥生時代

弥生時代では、中期頃の土器の小片がみられることから、集落や墓などが形成されていた可能性があるが、この時期に帰属する遺構は認められない。後期中葉から後葉頃になると、竪穴建物2棟(SII-2)がみられるようになり、集落が営まれるようになる。ただし、これらは確認された遺構の数や出土遺物の状況から、小規模であり、短期間で廃絶したとみられる。ところで、この集落が営まれた場所は丘陵頂部であり、平地との比高差は60m以上ある。ここは細尾根となっており、平坦地が少ない。ここから米子平野から日本海を望むことができ眺望は良いが、当該期における集落が形成される場所にしては条件が悪い。このため、見張所としての機能を有する高地性集落とみられるが、鎌など武器を示すような遺物が出土しておらず、広義の高地性集落（小野1984）として捉える事ができるだろう。

古墳時代

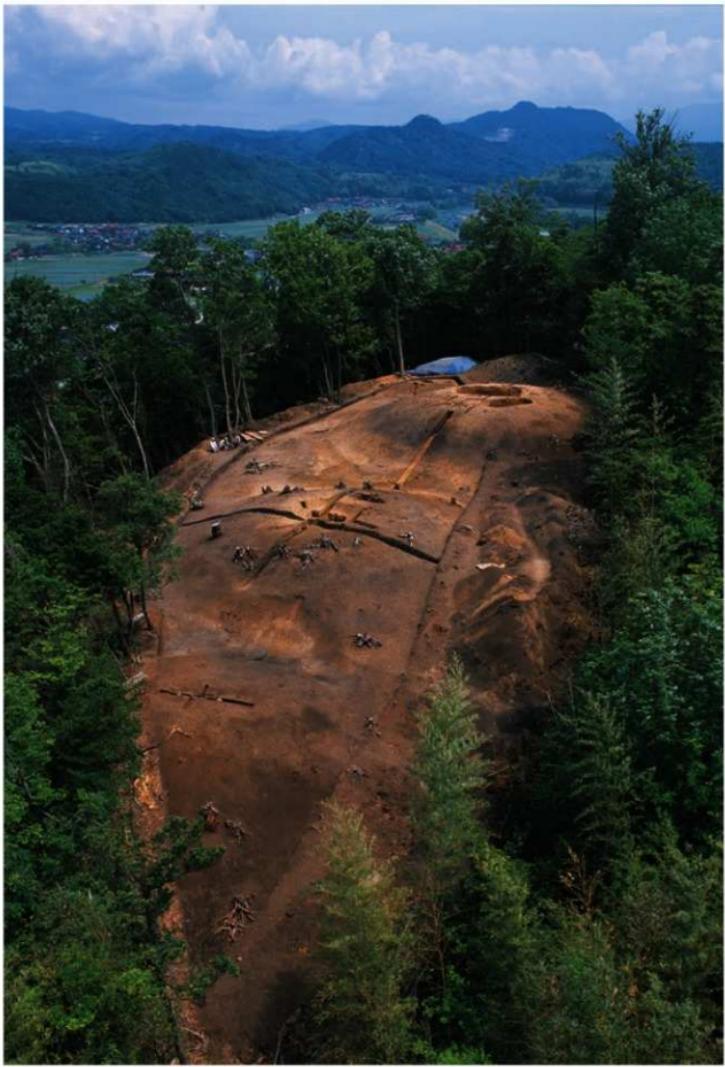
古墳時代では、中期前葉頃から後期にかけて古墳群が形成されるようになり、この丘陵一帯は墓域となる。これらは、時間の経過とともに場所を移しながら形成されたようである。古墳の築造方法についてみると、墳丘は西日本で広く認められる方法に従って築かれているが、時期の経過とともに簡略化されたと考えられる。埋葬方法については、頭位を東に向けて埋葬するものが大半を占めるが、同一墳丘内に新たに埋葬施設を築き追葬したと考えられるものや、同棺複数埋葬が行われている埋葬施設では、異なる方向のものがある。同棺複数埋葬が行われた埋葬施設の状況をみると、越敷山49号墳埋葬施設1では2体、越敷山51号墳埋葬施設1では5体の人骨が埋葬されている。このうち後者は、長期にわたり何度も追葬が行われていたと考えられる。副葬品については、越敷山51号墳において鉄剣、鉄刀、鉄鋸、鉄斧のほか、勾玉や管玉などの玉類、豎櫛と多彩な副葬品が出土しており、当該地域における有力者が埋葬されていた状況がうかがわれる。

参考文献

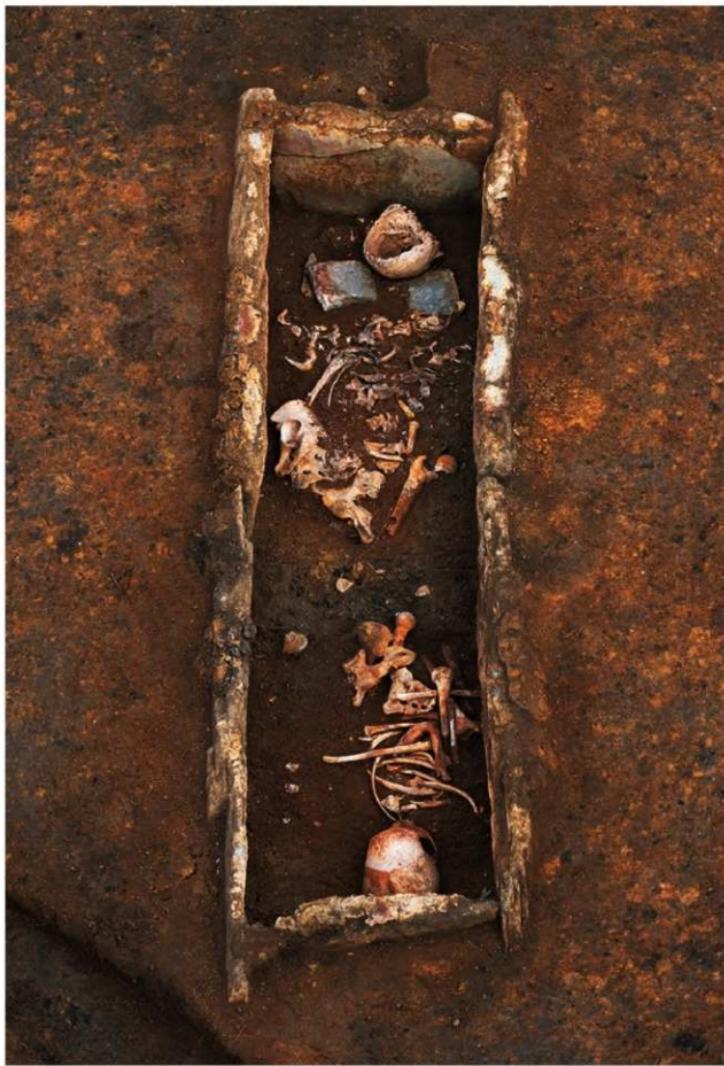
小野忠熙 1984「高地性集落論」学生社

PLATE





越敷山49・51・77・99号墳(西から)



越敷山49号墳埋葬施設1(南西から)



越敷山51号墳埋葬施設1(南西から)



越敷山51号墳埋葬施設2（北東から）



1. 越敷山51号墳墳丘断面(南北ベルト、西から)



2. 越敷山51号墳墳丘断面(南北ベルト北側、南西から)



3. 越敷山51号墳墳丘断面(南北ベルト中央、南西から)



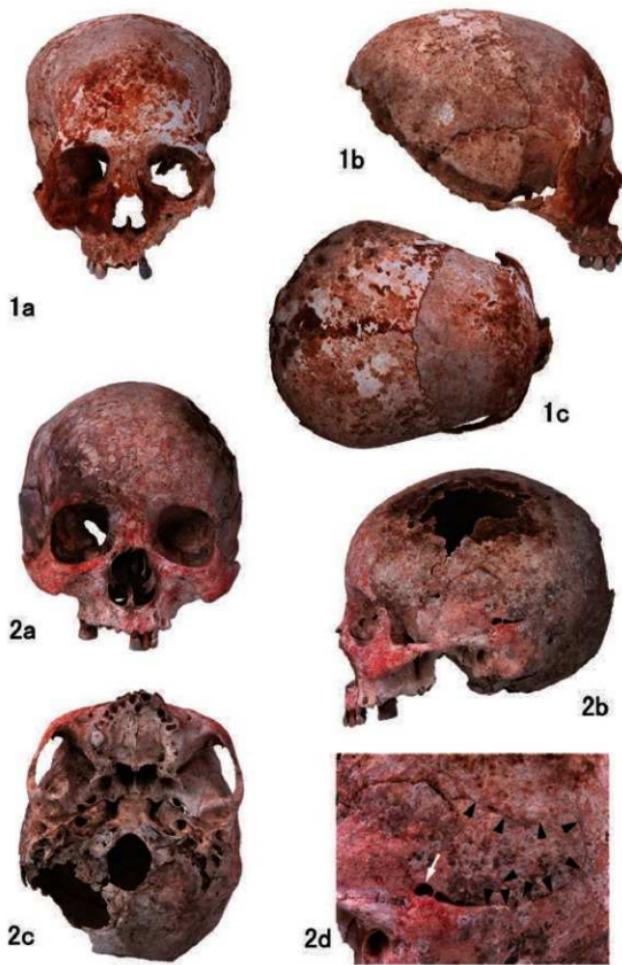
4. 越敷山51号墳墳丘断面(南北ベルト南側、南西から)



越敷山51号墳埋葬施設 1 出土遺物



越敷山51号墳埋葬施設1出土遺物



越敷山49・51号墳出土人骨

1：越敷山49号墳埋葬施設1の1号人骨。1a：正面観、1b：右側面観。

2：越敷山51号墳埋葬施設1の1号人骨。2a：正面観、2b：左側面観、2c：下面観、2d：左側頭部の骨折治癒（矢印は骨の癒合の際に生じた卵円形と涙滴形の開口、矢頭は骨折線を示す）。2aは注記番号跡を消すため、右側頭部に画像処理を施している。



1a



1b



1c



1d



2a



2b

越敷山51号墳出土人骨

1：越敷山51号墳埋葬施設1の2号人骨。1a：正面観、1b：左侧面観、1c：下面観、1d：上面観。1aと1bは注記番号跡を消すため、左側頭部に画像処理を施している。

2：越敷山51号墳埋葬施設1の3号人骨。2a：正面観、2b：右侧面観。





1. 越敷山75・76・98・121～123号墳調査前状況(北東から)



2. 越敷山75・76・98・121～123号墳(北東から)



1. 越敷山75・76・98・122・123号墳(北から)



2. 越敷山49・51号墳(北から)



1. 越敷山121号墳完掘状況
(東から)



2. 越敷山75号墳検出状況
(北から)



3. 越敷山75号墳埋葬施設検出状況
(北から)



1. 越敷山75号墳完掘状況(西から)



2. 越敷山75号墳埋葬施設館内完掘状況(西から)



3. 越敷山75号墳埋葬施設完掘状況(西から)



1. 越敷山76号墳完掘状況(西から)



2. 越敷山76号墳埋葬施設館内完掘状況(西から)



3. 越敷山76号墳埋葬施設完掘状況(西から)



1. 越敷山98号墳完掘状況(西から)



2. 越敷山98号墳埋葬施設検出状況(西から)



3. 越敷山98号墳埋葬施設館内完掘状況(西から)



1. 越敷山98号墳埋葬施設完掘状況
(西から)



2. 越敷山122号墳検出状況
(南から)



3. 越敷山122号墳埋葬施設検出状況
(南から)



1. 越敷山122号墳完掘状況(西から)



2. 越敷山122号墳埋葬施設内完掘状況(西から)



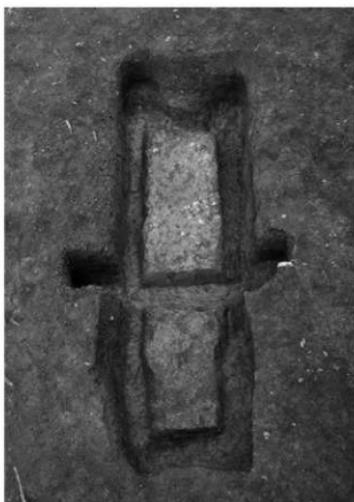
3. 越敷山122号墳埋葬施設完掘状況(西から)



1. 越敷山123号墳完掘状況(西から)



2. 越敷山123号墳埋葬施設内完掘状況(西から)



3. 越敷山123号墳埋葬施設完掘状況(西から)



1. 越敷山77号墳調査前状況
(南から)



2. 越敷山77号墳墳丘検出状況
(南から)



3. 越敷山77号墳完掘状況
(南から)



1. 越敷山77号墳完掘状況
(上空から)



2. 越敷山77号墳墳丘盛断面
(南から)



3. 越敷山77号墳墳丘除去後
(南から)



1. 越敷山77号墳埋葬施設検出状況(南西から)



2. 越敷山77号墳埋葬施設棺内完掘状況(南西から)



3. 越敷山77号墳埋葬施設石棺検出状況(南西から)



4. 越敷山77号墳埋葬施設完掘状況(南西から)



1. 越敷山49号墳調査前状況(南から)



2. 越敷山49号墳完掘状況(南から)



1. 越敷山49号墳第3工程盛土除去状況(南から)



2. 越敷山49号墳盛土除去後(南から)



1. 越敷山49号墳埋葬施設 1蓋石
検出状況(東から)



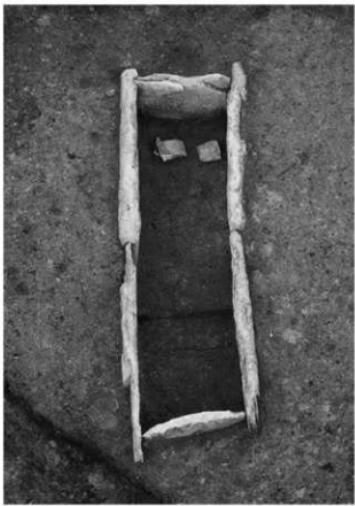
2. 越敷山49号墳埋葬施設 1棺内
人骨検出状況(東から)



3. 越敷山49号墳埋葬施設 1完掘
状況(西から)



1. 越敷山49号墳埋葬施設1人骨検出状況(東から)



2. 越敷山49号墳埋葬施設1棺内完掘状況(西から)



3. 越敷山49号墳埋葬施設2棺内完掘状況(西から)



4. 越敷山49号墳埋葬施設2完掘状況(西から)



1. 越敷山51号墳調査前状況(北東から)



2. 越敷山51号墳完掘状況(北東から)



1. 越敷山51号墳完掘状況(上空から)



2. 越敷山51号墳埋葬施設1・2棺内完掘状況(上空から)



1. 越敷山51号墳第5・6工程盛土除去状況(北から)



2. 越敷山51号墳盛土除去後(北から)



1. 越敷山51号墳埋葬施設1追葬時
掘り方断面(北東から)



2. 越敷山51号墳埋葬施設1
蓋石検出状況(東から)



3. 越敷山51号墳埋葬施設1
蓋石検出状況(西から)



1. 越敷山51号墳埋葬施設1人骨検出状況(南西から)



2. 越敷山51号墳埋葬施設1棺内1号人骨(南西から)



3. 越敷山51号墳埋葬施設1棺内2号人骨(北東から)



4. 越敷山51号墳埋葬施設1棺内3号人骨(南西から)



1. 越敷山51号墳埋葬施設1遺物出土状況
(F5・7～10、南西から)



2. 越敷山51号墳埋葬施設1遺物出土状況
(W1、南西から)



3. 越敷山51号墳埋葬施設1遺物出土状況
(F6、北東から)



4. 越敷山51号墳埋葬施設1遺物出土状況
(J1～15、北東から)



5. 越敷山51号墳埋葬施設1遺物出土状況
(J16～28、北から)



1. 越敷山51号墳埋葬施設
剥片散乱状況(北から)



2. 越敷山51号墳埋葬施設
石棺検出状況(南西から)



3. 越敷山51号墳埋葬施設
石棺検出状況(西から)



1. 越敷山51号墳埋葬施設2蓋石検出状況(南西から)



2. 越敷山51号墳埋葬施設2館内完掘状況(北東から)



3. 越敷山51号墳埋葬施設2石棺検出状況(北東から)



4. 越敷山51号墳埋葬施設2完掘状況(北東から)



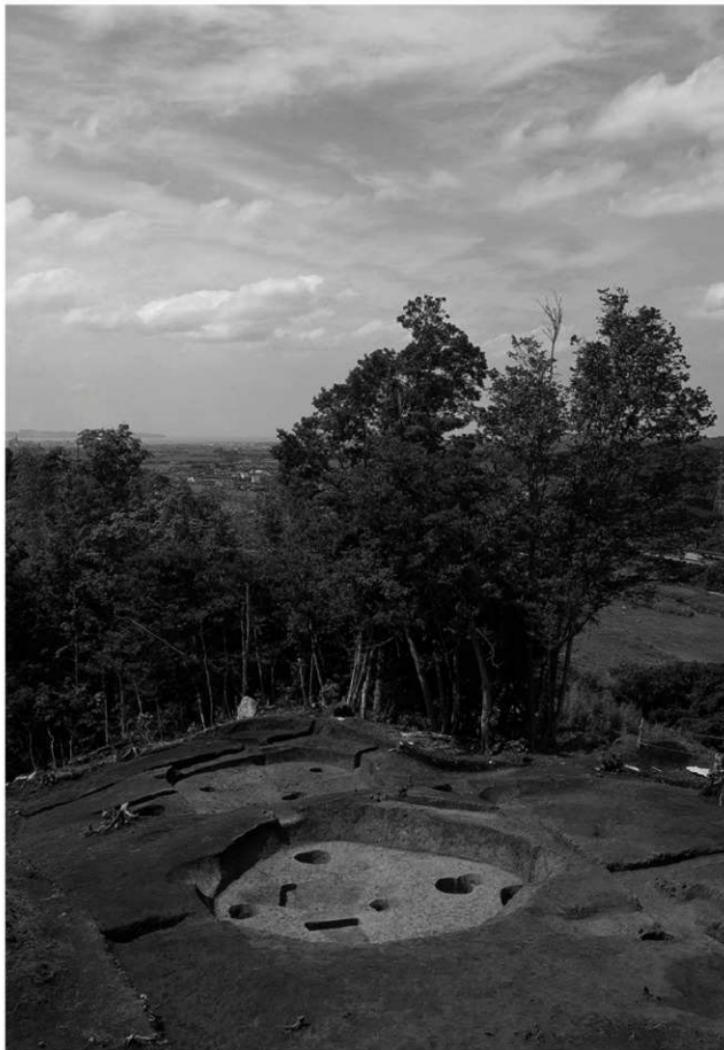
1. 越敷山99号墳完掘状況(西から)



2. 越敷山99号墳埋葬施設石蓋検出状況(北東から)



3. 越敷山99号墳埋葬施設内完掘状況(北東から)



S11・2穴掘状況(南から)



1. SI1完掘状況(南から)



2. SI1貼床除去後(南から)



3. SI1断面(南東から)



1. SI2完掘状況(南東から)



2. SI2貼床除去後(南東から)

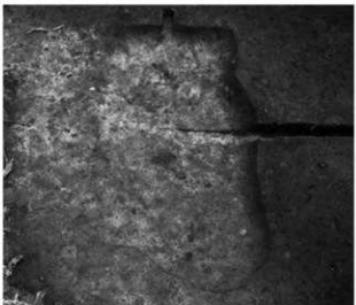


3. SI2断面(南西から)





1. SK1完掘状況(東から)



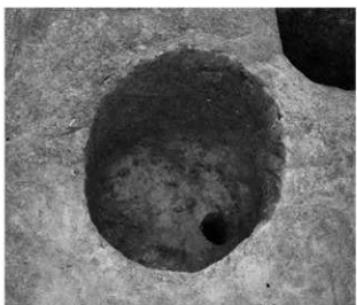
2. SK2完掘状況(北東から)



3. SK3完掘状況(北から)



4. SK4完掘状況(東から)



5. SK5完掘状況(東から)



6. SK6完掘状況(東から)



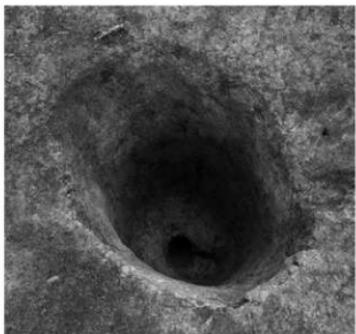
1. SK8完掘状況(北から)



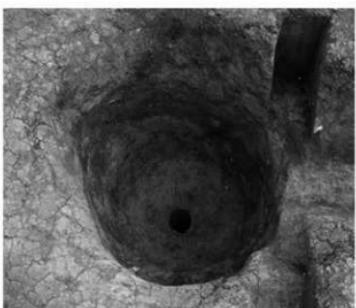
2. SK9完掘状況(北から)



3. SK10完掘状況(北から)



4. SK11完掘状況(西から)



5. SK12完掘状況(西から)



1. SK13完掘状況(東から)



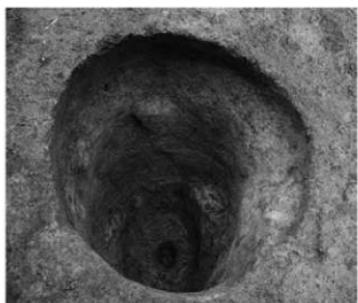
2. SK14完掘状況(北から)



3. SK15完掘状況(東から)



4. SK16完掘状況(南から)



5. SK17完掘状況(東から)



6. SK18完掘状況(北から)



1. SK19完掘状況(西から)



2. SK20完掘状況(南から)



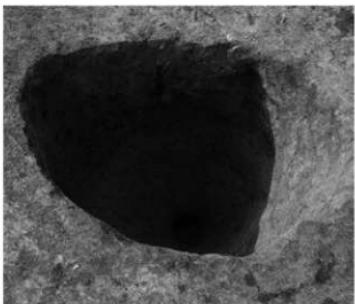
3. SK21完掘状況(南から)



4. SK22完掘状況(北から)



5. SK23完掘状況(北から)



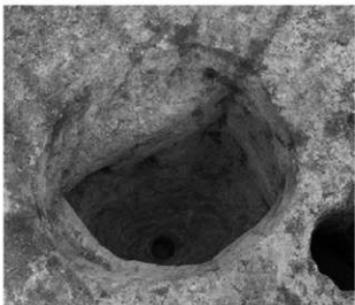
6. SK24完掘状況(南から)



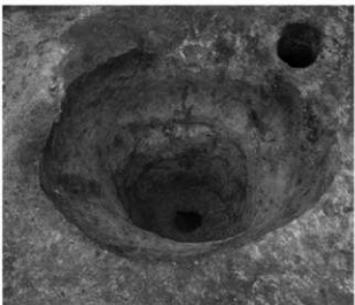
1. SK25完掘状況(東から)



2. SK26完掘状況(南から)



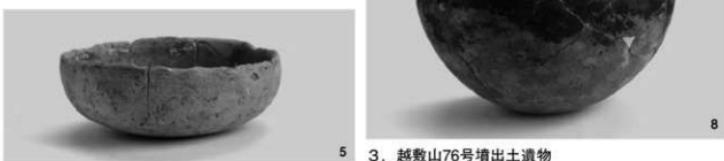
3. SK27完掘状況(北から)



4. SK28完掘状況(北から)



1. 越敷山121号墳出土遺物



3. 越敷山76号墳出土遺物



2. 越敷山75号墳出土遺物



4. 越敷山122号墳出土遺物



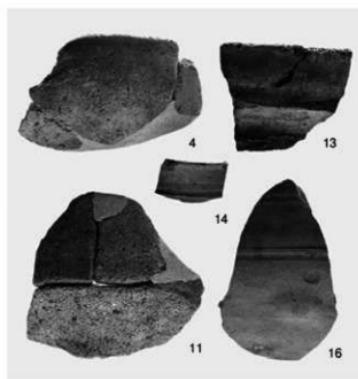
1. 越敷山123号填出土遗物



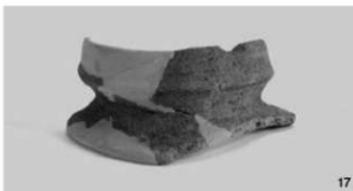
2. 越敷山77号填出土遗物



3. 越敷山49号填出土遗物



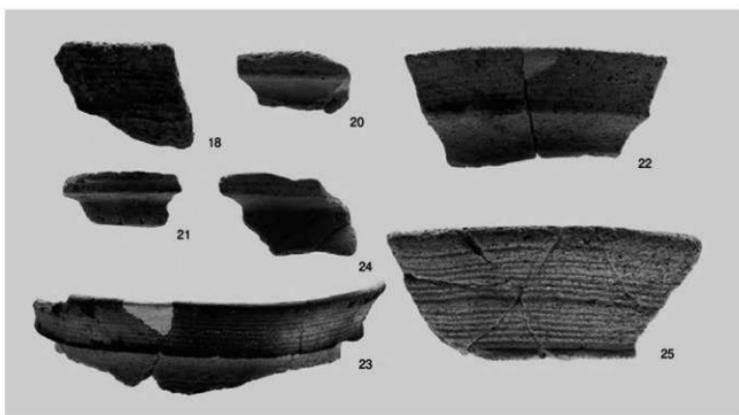
4. 越敷山51·75·77·99号填出土遗物



1. 越敷山99号墳出土遺物



2. 越敷山76号墳・遺構に伴わない遺物



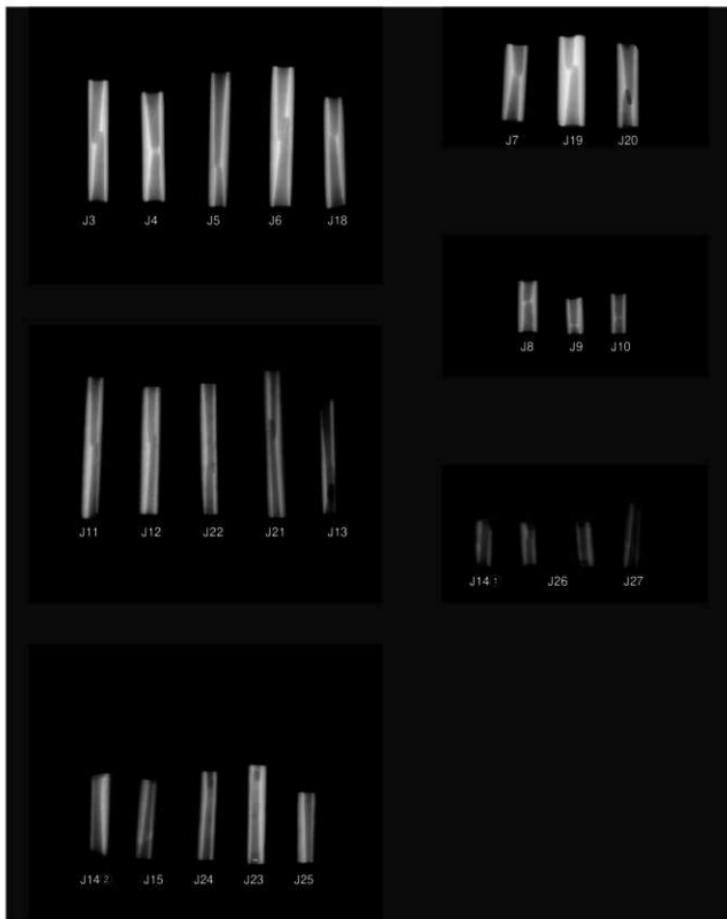
3. SI1・2・遺構に伴わない遺物

PL.46-1



PL.47-2





越敷山51号墳埋葬施設1出土管玉X線写真

報告書抄録

ふりがな	かなまわりいえのうえのうちいせき	こしきさんこふんぐん(かなまわりちく)					
書名	金廻家ノ上ノ内遺跡	越敷山古墳群(金廻地区)					
副書名	一般国道181号(岸本バイパス)道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書						
巻次	X						
シリーズ名	鳥取県教育文化財団調査報告書						
シリーズ番号	119						
編著者名	玉木秀幸、白石純、井上貴央、松原章範、岡崎健治、江田真穂、足立昭子						
編集機関	財団法人鳥取県教育文化財団 調査室						
所在地	〒680-1133 鳥取県鳥取市源太12番地 電話(0857)51-7552						
発行年月日	2013(平成25)年3月18日						
ふりがな	ふりがな	コード					
所収遺跡名	所在地	市町村	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
金廻家ノ上ノ内遺跡 (金廻地区)	越敷山古墳群 (金廻地区)	31371	1-114・ 116・ 140～ 142・ 163・ 164・ 379～ 381・ 384	35°22'26" E 133°24'42" N	20110526 ～ 20120706	4,544.5m ²	一般国道181号(岸本バイパス)道路改良工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
金廻家ノ上ノ内遺跡 (金廻地区)	集落	縄文時代	落とし穴				
	古墳	弥生時代	堅穴建物	弥生土器			
		古墳時代	古墳	鉄劍、鉄刀、鉄鋒、 勾玉、管玉			
要約	金廻家ノ上ノ内遺跡は、越敷山から派生する丘陵の尾根上にある遺跡であり、そこには越敷山古墳群に属する古墳が所在する。調査の結果、縄文時代から古墳時代の遺構や遺物を確認した。縄文時代では落とし穴が多数認められ、獣葬場となっていたとみられる。弥生時代では堅穴建物2棟を確認した。通常の集落にしては平坦地が少なく、低地との比高差がある場所にあることから、広義の高地性集落として營まれていたと考えられる。古墳時代では、越敷山49・51・75～77・98・99・121・123号墳を確認した。これらは中期から後期に属することから、金廻周辺に分布する古墳は、この頃に築造されたものと思われる。なお、今回調査した古墳のうち、越敷山51号墳は、埋葬施設1から5体の人骨を検出したほか、鉄劍、鉄刀、鉄鋒、鉄斧、管玉、勾玉など多彩な副葬品が出土し、また墳丘の築造は、墳丘表面側に土手を造らせ、その内面に土を充填していく西日本で広く認められる方法によって行われ、さらにその主体部となる埋葬施設1は、墳丘とともに形成する構築墓塚であるなど、当該地域における古墳の埋葬方法や築造方法を知る上で、数多くの情報が得られた。						

鳥取県教育文化財団調査報告書 119

一般国道 181 号（岸本バイパス）道路改良工事に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書 X

鳥取県西伯郡伯耆町

金廻家ノ上ノ内遺跡 越敷山古墳群（金廻地区）

発行 2013 年 3 月 18 日

編集 財團法人鳥取県教育文化財団 調査室

〒 680-1133 鳥取県鳥取市源太 12 番地

電話 (0857) 51-7552

発行者 財團法人鳥取県教育文化財団

印刷 勝美印刷株式会社